

## 令和6年度 第2回長野市観光振興審議会 会議録

日 時 令和7年3月27日(木) 午前10時から正午まで  
場 所 長野市役所会議室202(長野市役所 第二庁舎 10階)  
出席者 委員(13人中11人出席)  
事務局8人  
観光振興計画進捗管理SCOP1人

### 1 観光文化部長挨拶

観光を取り巻く状況としては、北陸新幹線金沢延伸から10年、また敦賀延伸から1年と  
いうことで、長野市にも北陸方面、さらには関西方面からも多くの方にお越しいただいてい  
ると実感する。また、昨今のインバウンド状況については、多くの方が訪日され、長野地域  
でも大勢の外国人観光客を街中で見かける場面が見て取れる点からも、今後一層インバウ  
ンド需要は大きく伸びるものと考えている。

令和9年には善光寺御開帳の開催も決定し、引き続きインバウンド、また国内の観光事業  
も積極的に誘客に取り組む必要があると考えている。

本日の審議会では、長野市の観光施策が戦略的に進められるよう、それぞれの専門の立場  
から、忌憚のない意見を頂戴したい。

### 2 会長挨拶

現在、インバウンドが急速に伸びてきている。長野駅では、周辺の地域へ行くバス待ちの  
インバウンド旅行者が多く見受けられる。また、善光寺や戸隠地域でも多くの海外の方が訪  
れている状況と聞く。これらインバウンドを含む観光旅行者は、国内外からの交流を生み出  
す。人口減少傾向にある日本にとって、観光産業は、成長戦略の柱であり、地域経済の活性  
化の切り札として、期待されている重要な分野になると考えている。

委員の皆様の協力のもと、観光を通じて長野市の活性化が図られるよう、努めていきたい。

### 3 議事(議長：笠原会長)

#### (1) 長野市観光振興計画 令和6年度年次事業計画の達成状況について

資料1 長野市観光振興計画【令和6年度年次事業計画進捗状況】及び【令和7  
年度年次事業計画(案)】

資料2 「実践プロジェクト」 令和6年度実績と総括と今後の方向性

資料3 長野市観光振興計画 令和6年度 年次事業計画の事業評価 (要旨)

資料3 - 参考資料 文化庁「全国各地の魅力的な文化財活用推進事業」  
松代真田家400年の歴史コンテンツ造成事業

- (2) 長野市観光振興計画 令和7年度年次事業計画（案）について
  - 資料1 長野市観光振興計画【令和6年度年次事業計画進捗状況】及び【令和7年度年次事業計画（案）】
  - 資料4 令和7年度年次事業計画 新規拡大事業（抜粋）
- (3) 温泉施設等の利用料金について
  - 資料5-1 温泉施設の利用料金について、
  - 資料5-2 戸隠高原キャンプ場及び戸隠スキー場の利用料金について
  - 資料5-3 飯綱高原キャンプ場の利用料金について
- (4) 次期長野市観光振興計画について
  - 資料6 次期長野市観光振興計画について

#### 4 質疑応答、意見など

##### (1) 長野市観光振興計画 令和6年度年次事業計画の達成状況について

A委員：広範囲の報告だが、eバイクやフィルムコミッションの効果、SNSの強化等は、他の自治体でも、どこの観光課でも考える当たり前のことに過ぎない。今後必要なのは、プラスアルファで、次に何を盛り込むか、何を生産していくかである。松代を例にすると、今は真田家を軸に、戦国や江戸の歴史を捉えての周遊という当然のコンテンツばかりである。第二次世界大戦に関わる大本営・象山地下壕と安茂里の地下壕などの近代戦争遺産、UFOが飛来する噂でサブガルの聖地でもある皆神山など、松代のまだ知られていない部分を掘り起こし、コンテンツとして盛り込んでいくべきだと思う。

善光寺や長野駅前では、裏スポットの案内もあるが、中山間地域となると昔から語られている側面、その強化すら感じられない。まだまだ知られていない掘り起こし、何かを新しく盛り込んだものを構築していかねばと感じる。

事務局：貴重な意見である。当たり前だけではないもの、これをもっと考えていかねばならない。今年、松代では真田邸を利用した食事をメインとしたプレミアムツアー、19世紀の文献を参考に松代藩主などがハレの日に食べていた「殿様御膳」の開発を行った。ただ食事を出すだけでなく、きちんとしたストーリーを作って展開することに取り組み始めている。

その他、各地域にもそれぞれ、まだまだ光の当たってないものも多く、それを全部把握していないのが実情。地元や、関係者の話を聞き、新しいコンテンツを発掘することを考えていきたい。

B委員：戸隠を訪れる海外の方が爆発的に増えたので、観光バスの増便をしたが、多くのお客様に地元の対応が間に合わず、結果クレームが増えている。特に問題となったのは帰りの便の最終が17時台で、乗り遅れる方が多かったこと。市街地からのタクシーも件数が多いと断られ、宿は満室、開いているお店に急遽駆け込まれ、結局長野駅まで

自分達の車で送ることも少なくなかった。こんな状況が続くと「来ていただいて嬉しい」より、「もう来て欲しくない」という感想が上回ってしまう。これからインバウンドの対応は必要不可欠なので、他の観光地での対応の成功事例があれば聴きたい。

事務局：戸隠地区の実践プロジェクトに取り組むにあたり、まずは戸隠の実態・課題・現状・推移をしっかりと把握して進めなければならない。民宿と宿坊、飲食店とで課題は違う。成功事例も含め、調査をする必要がある。

B委員：ゴールデンウィークやグリーンシーズンが始まる5月を控え、もう時間が無いため、実際に成功している観光地の例を、とりあえず取り込んで対応していきたいが…。

事務局：戸隠では4月1日より新たに路線バス「観光特急戸隠線」と「戸隠観光連絡バス」が運行される。「観光特急戸隠線」は帰りの便が増え、「戸隠観光連絡バス」は戸隠営業所（中社）から戸隠キャンプ場間を運行し、戸隠地域内の移動が便利になると期待している。

今、全国的にオーバーツーリズムが叫ばれ、多くの観光地でも対応に苦戦していることは理解している。そんな中、生の声が聞けることはありがたい。これからも地元の声に耳を傾け、提案できるよう色々協力していきたい。

また、ながの観光コンベンションビューローや各観光協会と連携し、宿泊施設や長野駅東口のサイネージを通じ、海外の方が日本の習慣、気候を理解していただくような情報提供にも取り組んでいる。文化や習慣の違いも含め、戸隠は高冷地で冬の厳しさは生命に関わることなども発信が必要と考えている。

会長：特に旧正月の2月と3月はインバウンドの観光客が過多で、対策の必要がある。富士山の入山料や入場規制を参考にするのも一つの策だが、ピーク時と平常時の対応は考慮しなければならない。

C委員：戸隠の一番の問題はやっぱり足である。観光客が集まる時期の一本道の渋滞は本当に酷い。戸隠で駐車場を広げることは不可能と感じる今、ただ1つ解決の鍵としてあるのは「飯綱」の利用ではないか。飯綱に既にある駐車場を活用して、マイカーの流入を減らすかである。また、シャトルバスでのピストン輸送を基本に、飯綱で戸隠の混み具合を情報発信できる場を作ると、そこで判断し、目的地を飯綱に変更し、食事やお土産でお金を落としてくれることになるかもしれない。

A委員：バス利用での日帰りが多いが、4～5人でのレンタカー利用も増えていると聞く。結局戸隠に通じる道は限られ、冬はスキー客も多く、スキー場の駐車場も満車になる。通過点の飯綱での駐車や上高地のようにマイカー規制を検討する価値はあると思う。

事務局：実際戸隠ではゴールデンウィークの渋滞対策として、戸隠スキー場の駐車場からバスに乗り換える取り組みをしている。また、観光協会のホームページでは蕎麦屋の混雑も含め、きめ細かい情報発信をしている。これをPRしつつ、抑制する部分の必要性も感じる。ただ、ゴールデンウィークは飯綱も混んでいるので通年ではなく、インバウンドが特に多い、旧正月の対策が肝心になると思う。

D委員：導入したマウンテンバイクの有効活用を呼び掛けたい。白馬での「北アルプス山麓グランフォンド」というマウンテンバイクの競技大会と連携し、白馬村、鬼無里、戸隠、小川村、信州新町を囲む、ロードバイクを利用した企画に協力して欲しい。

また、今年は非常に雪が多く、雪を活用した田舎ならではの「かんじき」体験を試験的に実施した。プラスアルファでより一層地域の魅力を発信できるといい。

## (2) 長野市観光振興計画 令和7年度年次事業計画(案)について

A委員：街中の城山の話だが、県立美術館との連携と次の実施計画にあるが、前年度との対比の中で、県立美術館の入場者数が減っている。これについて観光振興課はどのようにその数字を読んでいるのか。

事務局：数字の読みに関してはしていない。

A委員：売り上げが落ちているというか、入場数が減っていることは、承知しているのか。

事務局：この計画は始まったばかりで、前から話はあったものの、今年度、県立美術館、県の方から改めて連携したい、善光寺、芸術館も含めた周遊をと話があり、今ようやく動いてきているというところである。それを受け、来年度以降実践プロジェクトの中で取り組んでいきたい。

A委員：長野市の市街地と城山公園の関係を考えた時、善光寺があつて城山公園がある。あの場所が観光の本当のコアだと思う。ところが、とても残念なのが県と市の連携、県立美術館の周りが市の公園緑地課の管轄となる城山公園という素敵な場所なのだが、ここの連携が全然取れていないことが問題。

特に私は去年から城山公園の駐車場の問題を市とやりとりし、市議会に働きかけながら、とにかくこの場所の歪みをどうにかしたいと思っている。市の立場としての有料化の経緯など全体も理解した上で、有料化に否定的な話ではなく、あの場所をうまく運用し、魅力をアップする必要があると考える。

県立美術館の入場者数の低下は、平日の駐車場料金が直結していて、今2時間600円かかる、そこが問題なのではないか。

今まで課題となったのは土日や繁忙期に人が集中し、混雑が発生する点。ところが、平日、今の状況を見ると、ほとんど使用されていない、満車になっているのを見たことがない、ながノビ！もオープンしたが、100%動いていることはないのが現状。やはり地元に住んでいる人にとっても、結局城山公園は観光をするために行く認識、インバウンドや外からの人の話だけではない。城山公園は、観光地としての側面も踏まえ、積極的に誘客をしても、結局土日に人が集中し、人が集中すると混雑によるストレスで充実度が減り、本当の魅力が発信できるのかという疑問が残る。同じ人気スポットでも、まだ余力がある平日に人を分散させていく概念が必要になると思う。

現在の状況を見て、駐車場料金を平日の2時間利用までは無料にして、それ以降を有料にする等、平日に集客できるようにする方法があるのではないか。

会 長：大門の床屋さんに行く時、近くに車を止めると、3～40分かかり、ポンと切符を入れると600円と表示される。そこで商店会の券を入れると300円になるが、それでも高いと感じる。

今の話のとおり、城山公園も近いので、朝行くと1台も停まっていない。我々も駐車場を経営しているが、市街地でもそれ程高くない。また、飲んで帰る時など24時間利用したい人もいるので2,000円とか、最低だと800円とか上限金額を決めているが、城山公園の駐車場にはそれが無い。今、24時間駐車すると凄い額になる点も含め、あの場所の今の状況は水を差したのではと思える。

決して有料を否定する訳ではないが、実際利用料金は本当に高過ぎると実感する。開発公社の理事もしているので、副市長も同席時、あれは絶対おかしい、水を差したと意見したところである。少なくとも100円ぐらいから始まり、2～3時間で200円にするべき、その上で24時間利用しても2,000円でストップしないと、無制限で料金が発生する。誘客がポイントで市が儲ける必要はないはず、そこを捉えて検討して欲しい。  
事務局：観光振興審議会の中で出た意見ということで、関係各所に確かに伝えたい。

E委員：少し関わっていたので有料化の経緯について話をする。前々回平成27年の御開帳の際は、城山駐車場は無料であった。

一方、善光寺の駐車場は以前から、それなりの金額を取っていたため、無料の駐車場に車を止めたいと清泉女学院や城山小学校周辺を長時間グルグル回る車が増えている状況があった。そこで地元の自治協から対策を求められ、100円で200円でもいいから利用料金徴収をというのがもともとのスタート、とは言え地元の方が公園を利用するのに、お金を取るのは如何なものかということで、子育てパスポートの制度ができた次第。

A委員：参考だが、現在の城山公園駐車場は、入庫から20分まで100円、以降20分毎に100円加算、指定の場所にて子育てパスポートまたは障害者手帳提示で2時間無料となる。

会 長：善光寺の駐車場は上限あるのか。

E委員：上限は設定していない。

会 長：そこが市中の感覚と違うところである。

E委員：ただ城山駐車場も善光寺の駐車場も繁忙期も同じ値段である。市中の駐車場は普段は上限があっても、繁忙期になると規定以上の高い金額に変更するところが多い。

会 長：無料は良くない、有料がいいと思っている上で、県立美術館も一緒に支えるというか、より多くの方が来やすくなるような立場の駐車場であることを望んでいる。

E委員：実際今、何が起きているかということ、城山小学校のグラウンドが無法地帯になりつつあるので、PTAとして動いている。

会 長：それは市の駐車場が高すぎることに繋がるのでないか。

本当に30分で床屋さん終わったら600円、これは観光審議会で話が出たと伝えて欲しい。

A委員：繁忙期にあたる年末年始やゴールデンウィークなど人が集中するときは、市民サービスは子育てパスポートすら使えない。

この前の年末年始、善光寺の裏の駐車場が通常600円のところ、500円に割引になっていた。これは私の中では歪みと捉えていて、今まで市は善光寺に合わせて600円設定だったのが、その繁忙期に500円でというのが理解できなかった。

E委員：その場所は民間の駐車場で、善光寺が運営しているものではない。

A委員：私が色々運動する中で、無料にしろと言っていると捉えられてしまうことがある。

問題の一つに長期駐車があり、城山駐車場に通勤のため無料だからと駐車している人もいる。すると本来利用すべき人が使えなかったとか、そういう問題もある訳だから、有料化は問題ない。

ただ実際は高齢者の利用が多い。例えば高齢者が平日、お孫さんの手を引いて城山動物園を利用する時には何の割引も無い。子育て世代の割引はあるが、お父さんお母さんが仕事に行っている間、子育てのサポートをしている高齢者への配慮が無いのは平等を前提とする市のサービスとしては、不完全だと思う。

全世代的に城山公園周辺を使用しやすくなる施策が必要と考える。

会 長：インバウンドもレンタカーでどんどん来るようになったのだから、市営の駐車場であればある程度サービス感覚を持ってもいいのではないか。

E委員：善光寺の駐車場は、以前は一応2時間500円だったが、現在2時間600円。

この数字の根拠は、国の道路で且つ、路上パーキング使用料が1時間300円、善光寺の滞在時間は平均1時間超え、参拝者のためが大前提なので、最適なのは1時間か2時間かの議論もあったが、2時間単位が正常と判断し、2時間600円にした。公共の駐車場で見ると1時間300円が基準になると、各所と調整して、はじき出した数字だが、これは平成2年の段階のものである。

A委員：1時間300円は全国平均か。

E委員：全国平均ではなく、パーキングチケットの制度、公安でやっている路上パーキング、いわゆるパーキングメーターがあって、お金を入れるシステム、あれが一般的には一番安価の駐車施設と言われており、その基準が1時間300円ということである。

会 長：長野市は公共的サービスの部分もあるので、観光客だけでなく、日頃の地元の方に向けた施策も含め、行きたくなる、利用しやすい料金を検討して欲しい。

F委員：ロケ誘致助成について。観光振興課から制作会社に長野市にこういう施策があるとPRしているのか。

事務局：長野市をロケ地として選び、使ってもらうことが目的。ながの観光コンベンションビューローのフィルムコミッション事務局と、この制度ができたことを積極的にPRし、これから取り組んで行きたい。

G委員：来年度は、よりインバウンドに力を入れるべきである。インバウンド対応は市民の大きな関心事になっている。実際に訪れる方も増加している訳で、海外での商談会や

内外の旅行会社に向け、長野来訪を促すことが大事になる。

インバウンドは、時代とともに、対象が変わってきている。最初は食べる・見るから始まって、体験をする、そして今は探ることに需要がある。見る、食べるは「モノ」、体験は「コト」、探るとなると「ココロ」である。

海外の人が興味のある、「日本人とは」に焦点を当てると答えは長野市にありと言えるのではないか。長野市にある善光寺・戸隠・松代には、日本人の心の構成の要素の中で大きい仏教・神道・武士道が揃っている。海外からの観光客に向け、日本の心を知ることができるかと訴えることができれば、かなり響くのではないかと。

ここにいる多くの有識者がコンテンツを絞り込み、充実したものとすると、宿泊も兼ねたインバウンド向けの商品展開も可能になる。もっと積極的に仕掛けて欲しい。

E委員：年々増加するインバウンドがキャパを超えると困ることが起きるのではという危惧が、今日戸隠の状況を知り、いよいよ現実になってきたと実感する。とはいえ、インバウンドにはメリットもたくさんあり、そこをどう販売展開、どこで着地するかの見極めも重要になると思う。また、善光寺参拝者、或いは長野市街地を訪れるインバウンドの方に対し、大規模災害時、どういう動きを取ることが適切なのか。災害時のマニュアルについても、是非もう一度ブラッシュアップすることが大事なのではと意見したい。

### (3) 温浴施設等の利用料金について、(4) 次期長野市観光振興計画について

A委員：これからのところで、今回考えて欲しいのは、新しい部分で長野市のペット観光である。市議会を見ても長野市の犬の公園の利用は見直しの時期に来ているのではないかと。過去を見れば、犬の立入禁止がSNS等で拡散され、長野市は犬にあまり優しくない街という周知がされていた事実がある。もともと城山公園の花壇の犬の踏み荒らしがきっかけで、昭和46年に制定された禁止事項だったと思う。

それが昨今、ペットを同伴した観光が注目されてきており、長野市でもペット同伴の方が実際多い。その観光客が善光寺を朝方散歩して、その流れで城山公園に行くと、犬が公園に入れないのは信じられないとSNS等で拡散された。市としても城山公園の一部で、犬が散歩できるエリアを解禁したことは知っているが、さらに踏み込み、ペットも同伴の人も、より楽しめる、より使いやすい、より一緒に行きたくなるPRができればと思う。長野市の施設だけに限らず、宿泊関係でペット同伴のプランを考えると、ドッグラン整備も進んでいるが、できれば街中のパブリックなどところでの同伴できる飲食店の提案など、今までの負の側面を変え、ペット同伴は他の自治体であまり見たこともないので、何か逆に可能性を感じるがいかかか。

事務局：近隣では黒姫高原スノーパークが、グレンデ、カフェ、宿泊施設で愛犬と一緒に楽しめる設備を整えていると聞く。ながの観光netではペット同伴可の宿泊施設を紹介しているが、そこからの情報発信も大事な要素でもあり、今後の課題となる。

A委員：他の市自治体では観光地として公園や高原を取り上げているが、できれば市街地との連続性で考えると、長野市は注目され、犬と共生することができるというイメージが広がっていく。観光からの移住が、その延長線にあるのではないか。

首都圏ではコロナを経て、ペットに癒される生活をという方が増えていると聞きますが、都会は共生するための周りの環境が、犬や猫には窮屈となることが多いようである。そこで長野市は、ペットと一緒に、日々を暮らすことができるというPRが、観光からの延長で繋がればと思う。

ただ、それには今までと同じ、他の自治体と同じ情報量ではなく、施設的なことなど少し先の戦略を持って取り組めるのではというのが私の提案である。

会長：今の提案はいいと思う。城山公園を例にすると、立ち入り禁止区間がわかりづらい。今は飼い主のマナーがしっかりしていることも踏まえ、一つ道を隔てた公園を犬専用のドッグランとして整備するなど、明確に分けるのはどうか。

また最近飼い主のマナーが非常にいいので、共生、公園の散歩を前提に、きちんとしたフォローを促すなど別のところにプログラムがあることは凄くいい。

事務局：ペットツーリズムという言葉があるのは承知している。飼い主がペットと旅行をすることだが、それに伴い、移動・宿泊・食事・観光などの環境整備の推進が、ビジネスの発展ともなるので、いろいろ研究していきたい。

B委員：戸隠は神様に手を合わせる習慣がある場所なので、その体験を促す誘客がありがたい。手を拭かない、食べ散らかす、残したものを床に捨てることは、それぞれの国の文化かもしれないが、日本ではよしとしないことが理解されない。

商売ではあるが、戸隠では家族経営のこじんまりした施設が多いため、負担ばかりが増え、インバウンドを受け入れるメリットは少ないという声があまりにも多い。インバウンドを積極的に地方へ呼び込むのであれば、地元の文化の共有をきちんとPRして欲しい。

事務局：マナーや日本の文化は、インバウンドの方にも理解をお願いしたい部分。それについては重ねてとなるが、ホームページや駅のデジタルサイネージでの案内・周知の徹底を目指し、取り組みを進めていきたい。

G委員：来年度からの次の5ヵ年計画の準備について。今日各委員の生の声を聞くと、地元の違い、考えと、市の計画が、必ずしも噛み合っていない部分もあるのではないかと。一方、住民は自分のエリアでの計画があることを知らないことが多い。基礎の調査や計画の前の段階で、地元住民や商店街にヒアリングし、その思いをしっかりと受け止めた上で、次の段階に進むことが理想。うまくコラボレーションできれば、地域と一体感を持って計画を進めていけるはずである。

事務局：今までは一般的な観光動向調査が主体。しかし、それぞれの地域で取り組むべき課題は違う。そこで来年度からの基礎調査では皆さんの意見をしっかりと吸い上げていきたい。その際は観光協会を始め地元の方をお願いすることも多くなると思う。

## 5 その他

会 長：様々な話が出たが、市が解決する問題ばかりでは無く、民間と地域とで解決していかなければいけないことも多い。インバウンド対応は観光地として、それぞれの立場で協力して取り組む問題。長野市に対しても、是非バックアップをお願いしたい。

## 6 閉 会